

---

大きな会場だけでなく、普通のライブハウスがバリアフリーであってほしい。人の面でも変わってほしい。

---

e)内部および肢体

障害福祉サービスが、家族の同居等で利用できない。また、複数の障がいがあり、それぞれの状態がぎりぎりであるため使えないサービスが多い。

---

### ③ニーズ調査の分析

障がい者が舞台芸術を「表現者として演ずる」際のニーズについて、アンケート・聞き取り調査の結果明らかになったことは、行政の福祉サービスに頼ることなく、活動の中でネットワークを築き、身近にある資源を工夫して利用して音楽活動を続けている姿が浮き彫りになった。

アンケート調査では、「17. 表現活動を行う際に、どのような行政の福祉サービスを利用されていますか（複数回答可）？」において「特になし」が40.2%であった。

32.6%はプロとして仕事として行っているため、福祉サービスは制度上使えないということも影響しているかもしれない。ただ、1章(2)における鑑賞者のアンケートの同様な質問における「特になし」の割合とほぼ同数であった。

その理由は、同調査行政の福祉サービスが利用しにくいからなのではないだろうか。聞き取り調査においても、サービスの使いにくさを指摘する方が多かった。

### (3) 障がい者が舞台芸術の「表現者として演ずる」催事と配慮

ここでは、全国の障がい者が舞台芸術の「表現者として演ずる」催事とどのような合理的配慮が行われているか紹介し、今後の障がい者の舞台芸術活動の発展のための基礎的資料とする。

#### ①ゴールドコンサート

##### 1) 趣旨

「音楽は、バリアフリーだ」をテーマにした障がい者のための音楽コンテスト（NPO 法人日本バリアフリー協会主催）。国内および海外から選抜された 10 組のミュージシャンが、毎年東京国際フォーラムに集まり、グランプリを目指す。審査委員長に湯川れい子氏を迎え厳正に審査を行っている。

開催は去年度（平成 25 年）の大会で 10 回を迎え、観客数も年々増加している。2003 年に千代田区内幸町ホールで行われた第 1 回公演では 188 名であったが、2013 年の第 10 回大会では 1,045 名が来場した。

なお過去 10 回までの延べ・概算で、障がいを持つ応募者：720 組 観客数：約 8,200 名 協賛企業数：約 240 社 掲載メディア：500 回以上 ボランティア数：約 2,200 名 となっている。

また過去のグランプリ受賞者は、NHK でのレギュラー番組獲得、アポロシアターアマチュアナイトへの出場、メディアによるドキュメント制作など、演奏活動だけでなく幅広い分野で活躍している。

このコンサートを通じて、仲間や賛同者・支援者を増やし、障がい者も個性や能力に応じて社会・経済に貢献できるような社会の実現を目指している。

##### 2) 配慮

###### 【鑑賞者側から見た合理的配慮】

- ・点字チラシ、点字プログラムの制作と配布
- ・手話通訳の実施
- ・パソコン文字通訳の実施
- ・より広い車いすスペースの設置（※2011 年、第 8 回では 42 名の車いすのお客様が来場）
- ・聴こえ支援スピーカーの設置（※2013 年、第 10 回にて実施）
- ・体感音響システム席の設置（※2012 年、第 9 回にて実施）

###### 【表現者側から見た合理的配慮】

- ・国際フォーラムホール C は楽屋から車いすでフラットにステージに行ける。
- ・バックヤード側にバリアフリートイレがある。

## ②とっておきの音楽祭

### 1) 趣旨

とっておきの音楽祭は 2001 年より、毎年 6 月に仙台市内の市民広場や商店街などで行われている、野外音楽イベントである。観客数は毎年延べ 20 万人を超える、町ぐるみの一大イベントとなっている。ホームページの開催概要には「とっておきの音楽祭は、障害のある人もない人も一緒に音楽を楽しみ、音楽のチカラで、「心のバリアフリー」を目指す音楽祭です」（引用：<http://totteokino-ongakusai.jp/kaisai.html>）とあり、障がい者が障がい者としてではなく、健常者と同じように関わることによるバリアフリーを掲げている。

音楽祭実行委員会 SENDAI の主催で行われているが、毎年約 500 人ものボランティアがあり、音楽祭を支えている。様々な学校などの連帯もあり、学生ボランティアの数が多く、年齢問わず様々な年層の方々が参加している。

また会場は、商店街、市民広場、駅前などと、町全体が会場になっており町ぐるみで「心のバリアフリー」に取り組んでいる。

### 2) 配慮

#### 【鑑賞者側から見た合理的配慮】

- ・ バリアフリーマップの制作
- ・ レスパイトサービスの無料での提供
- ・ 要約筆記の実施（フィナーレのみ行っている）
- ・ 手話通訳の実施（第 1 回から毎年何百人単位の方が、完全ボランティアで行っている。）
- ・ 段差へのスロープの設置
- ・ バリアフリー対応なども含めた研修会の開催

#### 【表現者側から見た合理的配慮】

- ・ 市民広場のメインステージにスロープを設置
- ・ 街が協力してバリアフリーなイベントづくりに取り組んでいる。

## ③わたぼうし音楽祭

### 1) 趣旨

財団法人たんぼぼの家主催のアートプロジェクトである「たんぼぼプロジェクト」の一環として行われている。毎年 8 月に奈良県文化会館で行っており、去年（平成 25 年）の公演で 39 回を数える。基本的には障がい者の方は詩を書き、その詩を発表することがこのコンサートの目的であり、詩にメロディーをつけるのは別の人（応募者）である（もちろん、障がい者が作詞作曲しても可）。歌う人もケースバイケースだという。

毎年奈良文化会館で 8 月に行っており、日本全国各地域でも開催している。1991 年のシ

ンガポールを皮切りに、2年に1度「アジア太平洋わたぼうし音楽祭」も開催している。

開催のきっかけとしては、1975年障がい者の書く詩をなんとか発表する場を作れないだろうかと奈良文化会館にて「わたぼうしコンサート」を開催した。そしてその時の評判が良く、翌年から「わたぼうし音楽祭」を開催し、全国・海外へと広がっていった。

財団法人たんぼぼの家では、その他に手話で美術を語り合う「エイブル・アート・ムーブメント」などといった障がい者が芸術に触れあえるイベントを数多く行っている。

## 2) 配慮

- ・ 手話通訳は第1回目から毎年行っている

- ・ 要約筆記

要約筆記は使っていない。しかしそれには理由がある。それは「詩」を要約筆記してしまうと手話の意味がなくなってしまうからだ。「詩」を手話にすることによって、聴覚障がい者の方にも、その「詩」の深みを味わうことができる。その味わいを薄れさせたくないなので要約筆記は使っていない。

- ・ 点字プログラムを作っている。

- ・ 託児はしない

わたぼうし音楽祭は、皆で楽しみ、歌う。「騒いでも大丈夫」と担当者は語る。また知的障がいのある子どもを持つ親からは「わたぼうしなら安心して連れてこれる」という声上がる。

- ・ バリアフリートイレ

奈良県文化会館にはバリアフリートイレが2つ（男女1ずつ）完備されている。

## ④国際障害者ピアノフェスティバル

### 1)趣旨

全世界の「不可能を可能にする人たち」による4年に一度のピアノ音楽の祭典（2005年に日本で第一回大会を開催）。音楽の優劣を競うだけでなく、国際交流を通じて世界平和のために貢献することも目指している。主催は株式会社マツイシ楽器店。

主催者である迫田時雄はもともと武蔵野音楽大学でピアノの指導をしていた。その経験の中で、視覚障がい者でありながら確かなピアノの腕を持つ生徒にたくさん出会った。しかしそれと同時に、そのような視覚障がいの生徒たちが、障がいを理由に就職できないなどの現状にぶつかった。確かなピアノの腕を持ちながら、ピアノで世に出ていくことができないことに憤りを感じ、「ピアノパラリンピック（現、国際障害者ピアノフェスティバル）」

の開催を決めた。

2005年の「ピアノパラリンピック in JAPAN」を横浜みなとみらいホールで開催し、2009年はカナダのバンクーバー、2013年はオーストリアのウィーンで行っている。参加国は横浜で14か国、バンクーバーで12か国、ウィーンでは18か国である。

またこの他にもメダリストを集めた公演（※「ANHEARD NOTES／第3回 ウィーン国際障害者ピアノフェスティバル2013・受賞記念コンサート」、国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催）や、地域ごとでの小規模な大会も行っており、障がい者ミュージシャンの活動の場の拡大や、育成にも尽力を注いでいる。

## 2) 配慮

- ・ 手話通訳

必ず行っており、諸外国の出演者、お客様のことを考慮し様々な言語に対応できるようにしている。

- ・ 磁気ループ

もともと設備のない会場においても、設置している。

- ・ 要約筆記

大抵の場合するのだが、大会によっては諸外国からお客様が来られるので、すべての言語に対応することが難しい。そういった場合は使用しない。

- ・ 点字案内、プログラム

要約筆記と同じように、大会によっては諸外国からお客様が来られるので、すべての言語に対応しきれない。なのでそういった場合は作れない。

## ⑤クプナ・フラフェスティバル

### 1) 趣旨

1999年、国連が制定した国際高齢者年を記念して始められた。世界各国で学術的な高齢者に関するフォーラム等が多く開催される中、公益財団法人日本チャリティ協会は「高齢者に生きがいを与える、高齢者が楽しく踊れる場所を提供するという理念のもと、このクプナ・フラフェスティバルを開催した。

「クプナ」とはハワイの言葉で「シニア=高齢者」を意味している。出演するのは50歳以上の人々に限定しており、出演料はなく、出演者が負担するのは交通費のみである。

9月と6月の二回に分けて開催しており、毎回ハワイからプロの歌手やダンサーを呼び華やかに行われている。

2011年の第11回より、2日間続けて行われるようになり、出演者も含めた来場者は約

3,500人に上る。

## 2)合理的配慮

### 【鑑賞者に対して】

- ・手話通訳を行っている。

### 【出演者に対して】

- ・出演料はなく、交通費のみの負担である

## (4)ワークショップの報告

### ◆第1回

日時：1月24日（金）

場所：株式会社メディカルフォーラム会議室

出演者：穴澤 雄介

【パート】バイオリン

【障がい】視覚・内部

山田 メイ

【パート】ピアノ

参加者の感想：

- ・バイオリンとピアノのという編成で静かな曲が多くなるような感じがしたが、ポップな曲が多く、明るく楽しめた。
- ・バイオリンの意外な弾き方や音の出し方などを聴くことができ、バイオリンのイメージが変わる一日となった。
- ・視覚障がい者であるとは全く感じなかった。



### ◆第2回

日時：2月19日（水）

場所：株式会社メディカルフォーラム会議室

出演者：小澤 綾子

【パート】ボーカル

【障がい】肢体

山田 賢明

【パート】ボーカル・ギター

参加者の感想：

- ・自分の障がいについて、生い立ちから現在までの生活など詳しく話していただいたので、



当事者の考えを聞くことで、障がいの理解が深まった。

- ・歌と演奏を交えながらのセミナーだったので、より気持ちが伝わった。
- ・気持ちを伝えようとする演奏だったので、どんどん引き込まれていった。

#### ◆第3回

日時：3月15日（土）

場所：日比谷公園野外特設ステージ

出演者：山下 純一

【パート】 ハーモニカ・ボーカル・パーカッション

【障がい】 視覚・肢体

福田 尚生

【パート】 ベース・ピアノ

参加者の感想：

- ・野外で行われたこのイベントは土曜ということもあり、多くの人が足を止め、演奏に耳を傾けていた。
- ・演奏は明るい曲が多く、観客に元気を与えていたように感じた。
- ・MCにはユーモアがあり、さらに場を盛り上げていた。
- ・全盲で車いすであるのによくあそこまですごい演奏ができる。

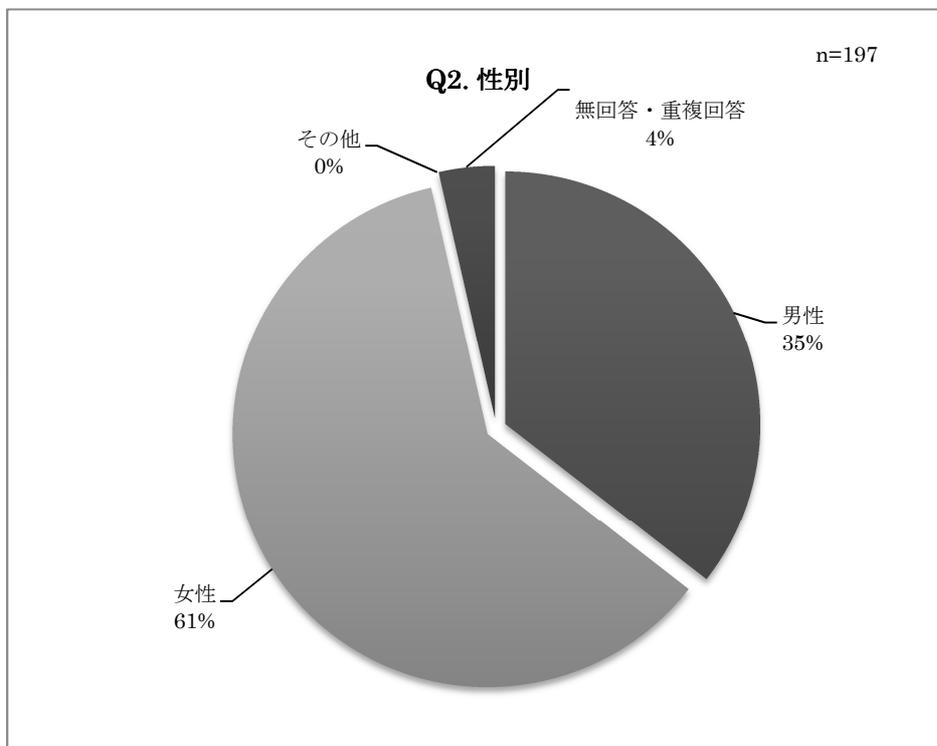
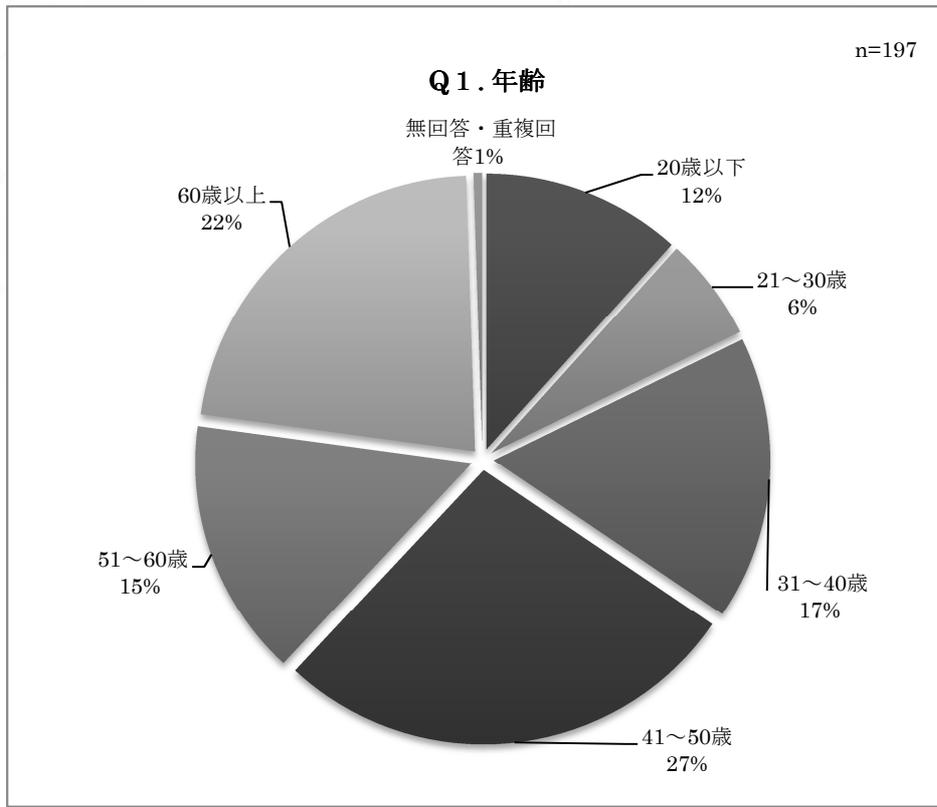


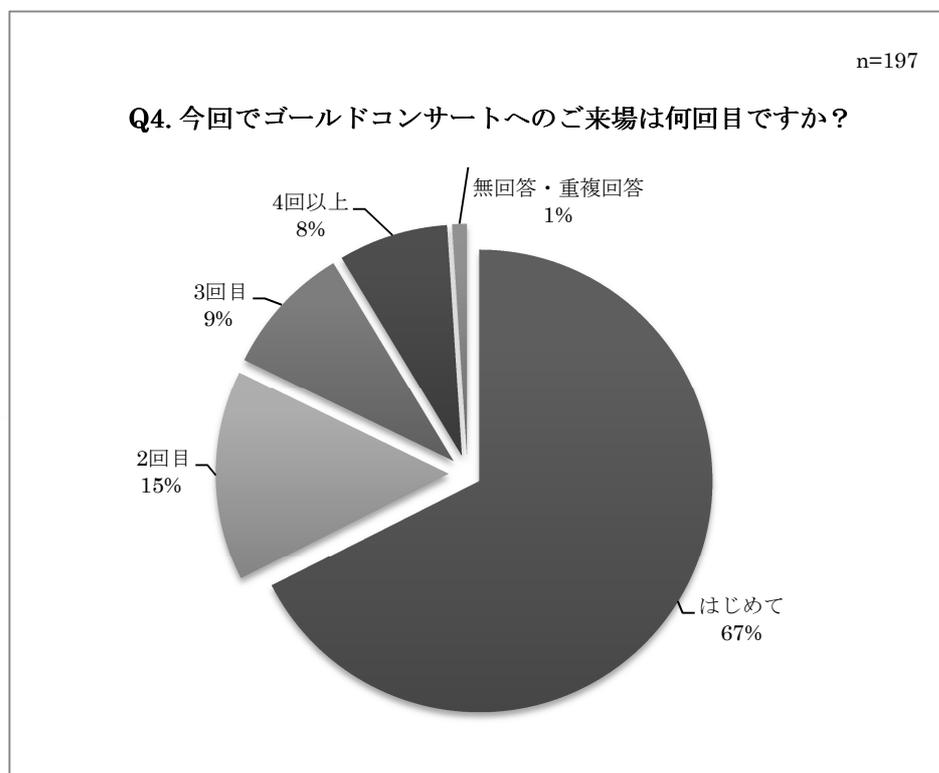
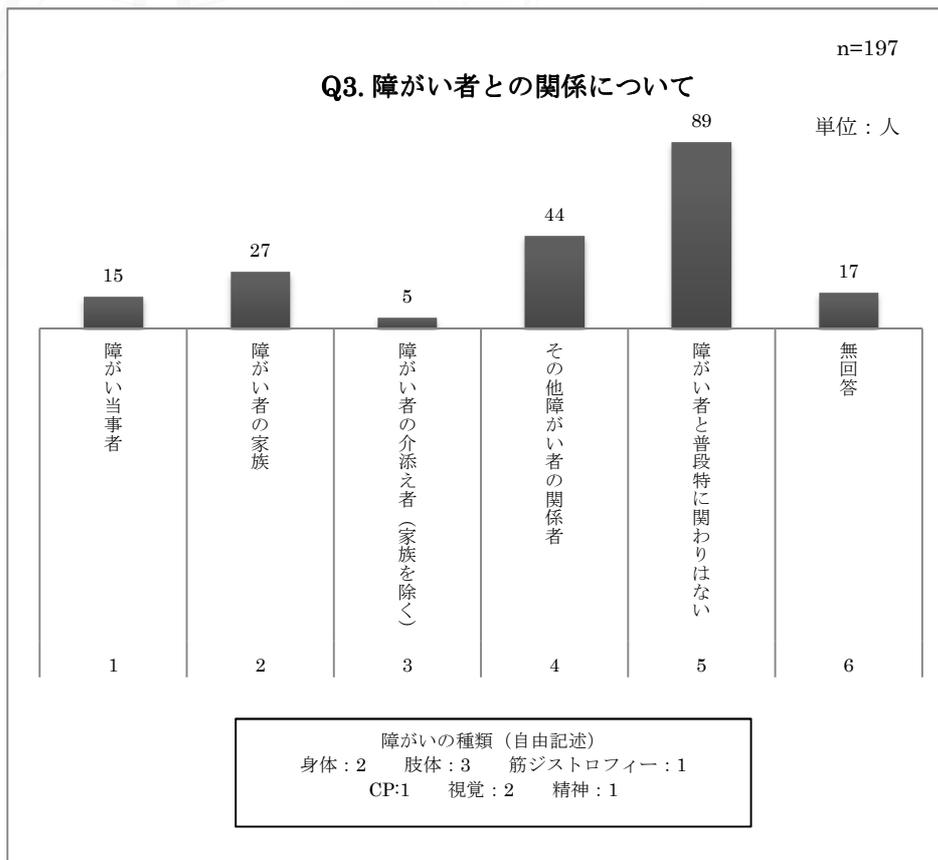
#### (5)観客の意識の現状

第10回ゴールドコンサートにおいては、全国から9組、韓国、パキスタンからそれぞれ1組の障がいをもつミュージシャンが演奏した。

観客に向けたアンケートを以下に集計し、障がい者の舞台芸術により意識がどのように変化したかの報告とする。

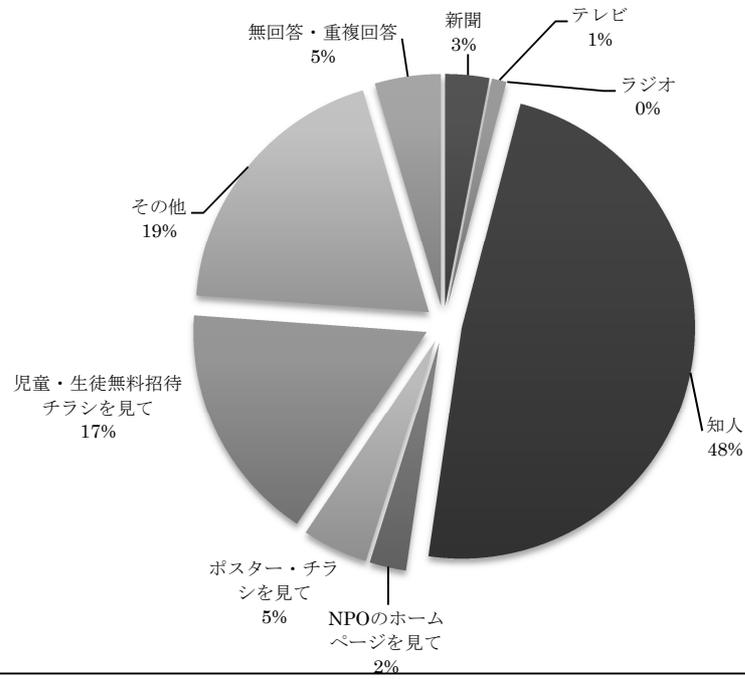
#### 1) ゴールドコンサート10 観客アンケート 集計



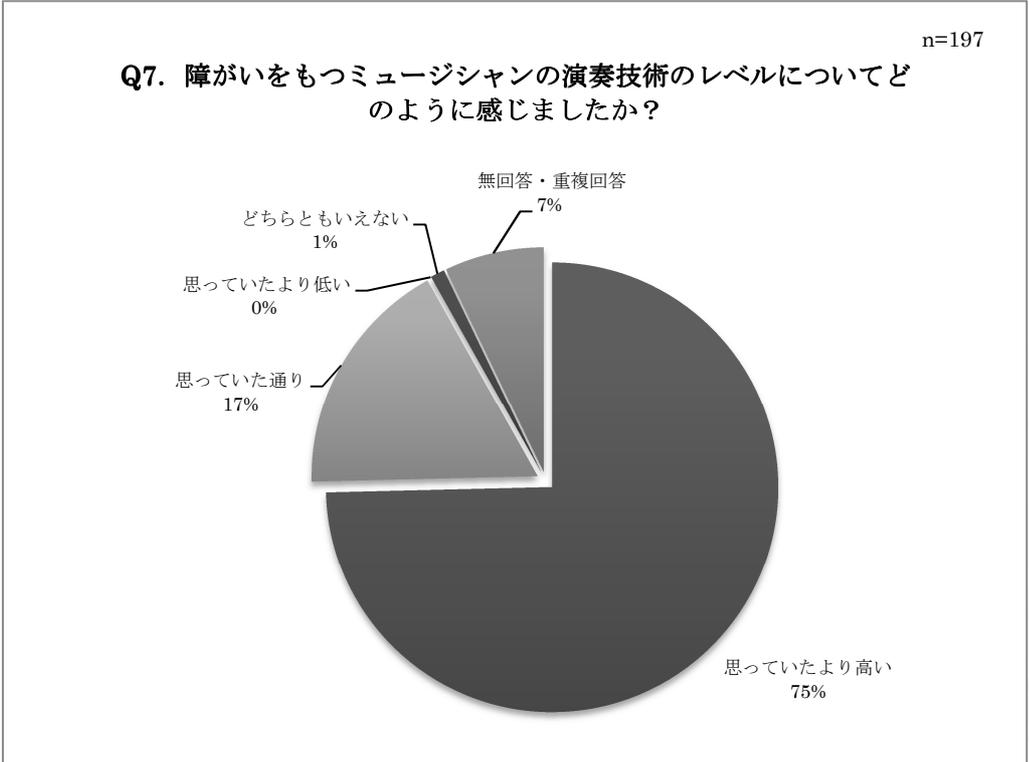
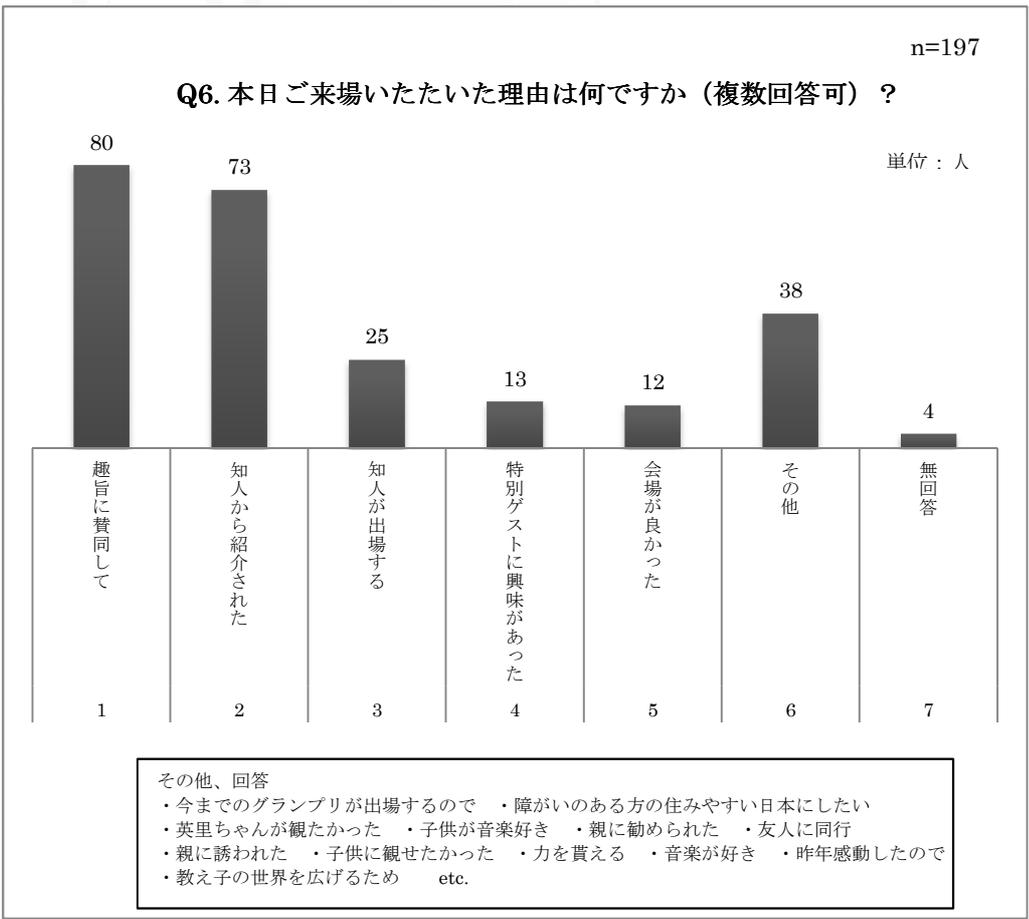


n=197

### Q5. 10周年ゴールドコンサートはどこでお知りになりましたか？

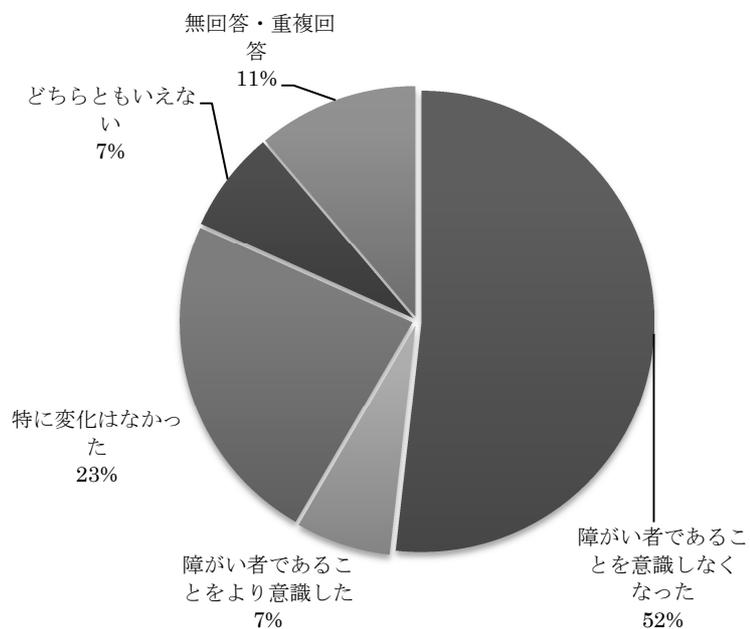


その他、回答  
・HPでチェック ・東儀秀樹倶楽部 ・出演者から ・案内が送られてきた ・代表者の告知  
・学校 ・メルマガ ・筋ジス会報 ・知人の誘い ・手をつなぐ親の会の紹介 ・出場者告知  
・ボランティアをしている知人 ・ブログ ・SNS ・会社案内 etc.



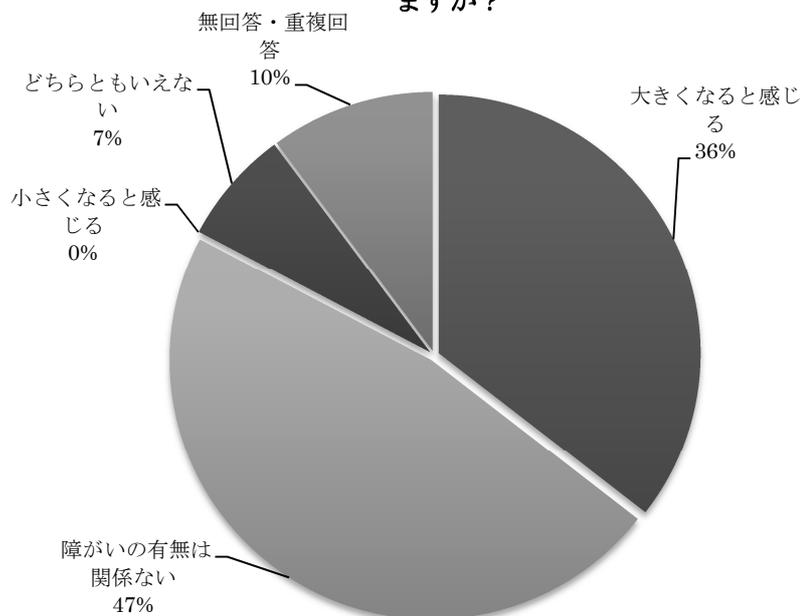
n=197

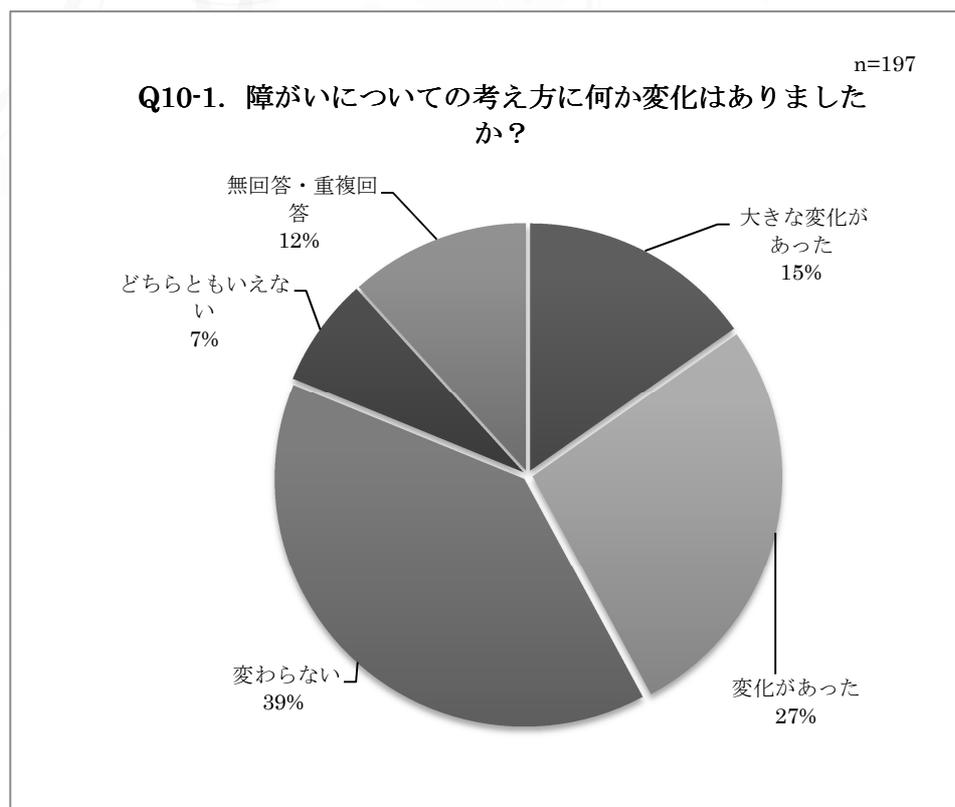
**Q8. 障がいをもつミュージシャンの演奏の鑑賞中に障がいがあることへの意識に変化はありましたか？**



n=197

**Q9. 演奏者に障がいがあることでより感動が大きくなると感じますか？**





### Q10-2 変化の内容

大きな変化があった
とても元気が出ました。
改めて障害の有無は共に生きていく上のバリアにはならない、障害が有っても無くても素晴らしいタレントに恵まれた人に出会えたことに感動・感謝しています。
勇気ももらえた。
目標に向かって励まれる姿が印象的でした。
障がいがあってもなくても同じ。
皆さんの能力の高さに驚きました。障がいのある人とない人との「違い」は何なのかを考える事が大事だと思いました。
障害の有無に関わらず、音楽は楽しんで演奏できる事を改めて実感した。
楽曲の歌詞を見ると、考え方のちがいがあった。素晴らしい人生観だと思った。考え方まで反省させられる事があるな—と思った。
障がいにならず、努力のあとでよく分かった。
障がい乗り越えて、それに止められずに、自己表現している姿に、人の可能性を強く感じ、人生の豊かさ、自由さを誰もが手にできると知った。皆さん強く生きているんだな、と感じて、すがすがしい気持ちになった。

<b>変化があった</b>
障がい者の方の可能性は果てしないと感じました。
障がいがあっても頑張れる勇気をもらいました。
障がいがあってもこんなに素敵になれることを感じました。
障がい者から勇気をもらえること。
努力がすごいと思うようになりました。
できる努力をすべきと勇気をもらえる。
ハンディキャップというより、“合理的配慮”さえあれば、才能一本で喰っていきける!と障害児の家族としては勇気付けられました。
不自由だからムリではなく、他の五感を生かし、努力すれば1つの形（音楽）が出来るのだと考えさせられました。
やる気と勇気があれば可能性が開けると感じました。
もっと自分も頑張らなくては!!
心が豊かになった。

#### Q11. その他、ご意見、ご感想

とてもレベルが高く、今回で3回目ですが、とても感動しました。皆さんの活躍の場がもっと広がっていくことを願っています。元気をもらえました。もっと自分も色々な事に挑戦しようと思います。
東儀さんを毎回ゲストにお呼び下さい。
これからのご活躍を祈っています。
しょうがい者になんぼってほしい。
ありがとうございました。感動しました。
会場時間をまもって下さい。
今回はグランドチャンピオンシップであったので、出演者のレベルは高かった。本コンサートの益々の発展を祈念します。
音楽において障害とは何かを考えさせられた。いわゆる障害より、心、とらわれること等、別のところに障害があるような気がします。
健常者に比べどれだけ努力されたか心が締め付けられる思いで聴かせていただきました。ほんとうにありがとうございました。夢に向かって頑張ってください。
障害のある人がきもちよくすごせる社会をつくらなくてはならないと思いました。
今回、子供の情操教育という観点からコンサートに来たいと思いましたが、そんな事を普段から考えないでいい、みんなどんな人も普通に暮らす世の中になればいいと願っています。
楽しかったです。
出演者、ゲストがすばらしかった。
本当に素晴らしい方々の心がふるえる時間でした。ありがとうございました。

これからも継続して欲しいです。
障がいがあっても気持ちが強ければ絶対にできると思うので、頑張ってもらいたいし、応援していきたいです。2020年のオリンピックでも何か参加できたらよいと思いました。
3人(組)で涙がボロボロ出ました。私は中途半端な心の人間です。励ましのうた、音楽ありがとうございました。本当にありがとう!!1人なんて決められなかったのが、3人はマルしたかったです。来て良かったです。
続けていただきたいです。
今回のコンサートで皆様障がいを持ちながら、ステキな音楽(各々歌やピアノ etc.)の中で生きていらっしゃる、皆さんに大きな感動を与えてくださいました。言葉では表現できない程の感動と勇気をもらいました。どうかこの様なコンサートを続けてください。ありがとうございました。東儀さんの笛も本当に素晴らしく、感動です。
素晴らしい才能を発揮する場がこのように素晴らしい会場にてあるなんて知りませんでした。本当に素晴らしいです。これからも是非続けてください。
特別支援学校にチケットをプレゼントして頂きありがとうございました。音楽の大好きな息子と初めて観に来させて頂きました。
楽しかったです。音楽が大好きです。また来たいです。
友人とその息子(障害児)に付き添って同行した。素晴らしいコンサートだと思いました。感動しました。
貝谷さんの著作を読ませて頂き、ファンになりました。これからも応援しています。
レベルの高さにびっくり。さすがグランプリ!!
メッセージ性が強い曲が多く、心に感じるどころが多々ありました。進行状況もテンポが良く、楽しいです。映像効果もステキでグレードアップしたステージありがとうございました。
開場の時間を予定通りをお願いしたい。
障がいがあっても音楽を通して自分を表現することが出来て、又、観客席にいる我々を楽しませ、感動させること本当に素晴らしいと思います。どの歌も演奏も良かったが、森圭一郎さんの歌は涙なしでは聞けませんでした。感動しました!ゲストの東儀さんも素晴らしい!今日来られて最高によかった。
コンサートの質の高さに感動。いつまでも続けてほしい。
障害者ではないが、老人にとってもスクリーンで写していただき、よくわかりました。スタッフ、ボランティアの方々にも感謝!
素晴らしいコンサートでした。
今後も応援させていただきます。
最後は驚きの結果でした。
感動したし、とても楽しかったです。
昨年まで数回ボランティアスタッフをしまして、いつか客として聴きたいと思っていましたので、今年10周年記念で、その希望をかなえました。歴代グランプリの共演で、例年よりレベルが高いと感じました。その一方で、意外性は少なかったように思います。来年も期待しています。

<p>視覚障害（全盲）の主人と来場しましたが、会場に入ってから点字パンフレットの存在を知り、頂く事が出来ませんでした。こういう催しだからこそ、スタッフに周知して欲しかったです。</p>
<p>全国各地でやるってのはダメなんですか？なぜ？（ネット中継やってるのは知ってます。）</p>
<p>パンフレットについて、点字があるかないかも分からず、配布の時点で視覚障害のある私に対し、当然のように渡さない事が不愉快でした。</p>
<p>ミュージシャンの方たちへのあこがれをいただく事ができました。</p>
<p>オマーさんの枠は盛り上がりを下げる感じがしました。特別に出場する意図が分からない。</p>
<p>森さんとか山下さんとか穴澤さんとか大石さんとか…ふつうにミュージックステーションに出演してほしい。</p>
<p>音楽のすばらしさを感じる事ができ、幸せな時間を過ごす事ができました。障害のあるなしに関わらない尊いものを感じました。</p>
<p>障害者の方が一生懸命、演奏、歌っている姿に感動。勇気をいただきました。今後もこのような機会があったら参加したいと思いました。</p>
<p>最高!!人生ファンキーに生きようと思いました。ありがとうございました。</p>
<p>感動をありがとうございました。</p>
<p>毎回楽しみにしています。自閉症児の息子もコンサートに出場すると夢みて日々ピアノを頑張っています。ゴールドコンサートがずっと続きますように。機会があれば私もぜひボランティアとして参加させて頂きたいです。</p>
<p>自分の精一杯の実力を発揮できていたので良かった!</p>
<p>苦労はあるでしょうが、夢を追い続け、頑張ってください!!</p>
<p>4年生の息子が一生懸命聞いていました。知的障害でこんなに長い時間落ち着いて見れたのは初めてでした。きっと惹かれるものがあったのでしょう。</p>
<p>最後の特別出場者の方がなんで出場されていたのかわからない。</p>
<p>参加者（演奏者）としては、目標たる意義が大きいのかもかもしれないが、鑑賞者としては、障害者による音楽という事ではなく、純粹に音楽として楽しめれば一番である。そして、このコンサートは、そのレベルに達していると、確信した。</p>
<p>2020年の東京オリンピックをきっかけにして、日本社会が今以上に障がい者との共存共栄に向けて好転することを願います。</p>
<p>障がいを持っている人だから伝えられるメッセージがある。是非どんどん発信して欲しい!スタッフの皆さん来年も会いましょう。See you again.</p>
<p>ステージに立つ方、皆さん楽しそうで、障がい関係なく楽しめました。普段より、LIVE HOUSEで音楽を楽しんでいるので（聴く側）、彼らの音楽もLIVE HOUSEで通常ブッキング（対バン）で楽しみたいと思いました。</p>
<p>昨年、コンサートを知り、今年見に来ることが出来ました。障害を持っているという事とは関係なく、皆さんレベルが高くてとても感動しました。</p>

<p>第8回にボランティアスタッフとして参加させていただき、内容はもとより運営の素晴らしさを味わい、以後、観客として参加させていただいています。(昨年、今年も1日時間が取れなかったのです。) 今後も楽しみにしています。</p>
<p>年に一回のこのコンサートはいつも楽しみにしています。今年は特に10周年、特別でした。会場ですが足下が冷え過ぎですので、もう少し温度を上げていただけたらと思います。</p>
<p>皆様すばらしいですね。初めて来場いたしました、感動いたしました。また参加させていただきます!</p>
<p>自分でも55才から音楽を習いだしたけど、とてもむずかしいのに、今日のコンサートでは障がい者とは思えないすばらしいコンサートでした。来てよかった。感激です。</p>
<p>ひとりひとりの思いがあふれた演奏だった。どの方も素晴らしかった。本人ももちろん、ご家族も素晴らしいのでしょう。</p>
<p>すばらしい演奏ばかりで感動した。</p>
<p>作詞している方はメッセージ性も強くて心うたれました。</p>
<p>ホーキングのインタビューで余韻がダイナシ。あれはインタビューではない。メッセージが前に出過ぎて、しんどい曲が多かった。この仲間には入れそうもない。ただ、聞いて楽しかったのは山下さんだけだった。</p>
<p>素晴らしい、素晴らしい。みんないきいきしている。みんな楽しそう。みんなつながっている。みんな一緒。</p>
<p>またこのような機会があれば聴きたいと思いました。とても感動しました。来て良かったです。</p>
<p>とても感動しました!</p>
<p>素敵なイベントです。</p>
<p>素晴らしい音楽をありがとうございました。大変感動しました。</p>
<p>楽しかったです!ありがとうございました!</p>
<p>大変素晴らしい時間になりました。ありがとうございました。6才の息子も長い時間でしたが、しっかりと聞き何かを感じたようでした。</p>
<p>素晴らしい方々に感動いたしました。様々な障がいがあるにしても乗り越えられていることにもずいぶんと努力がいったことと思いますが、前向きに自己表現なさる姿に感動いたしました。感性の素晴らしさに感謝。しっかりしなければと思います。</p>
<p>出演者の皆さんはもちろん、ゲストの方々、又、コラボ最高でした!毎回、感動をありがとうございます。 ※通訳、グレードアップ求めます。</p>
<p>レベルの高い演奏に感動しました。</p>
<p>すばらしく、感動いたしました。次回も参加させていただきます。</p>
<p>最初の曲から数曲、感動で涙がこぼれました。これは、演奏している方が障がいをもっているからではなく、歌と演奏の素晴らしさから、多くはくるものでした。</p>

もっと早く終わりにして下さい。
スタッフの皆様、サポートの方々、大変御苦勞様でした。お世話になりました。遠くから来る為、もう少し早くやり、早く終わるので、助かります。
皆さん、素晴らしく、すごく楽しかったです。今日、機会があって、ここに来ることができて、幸せでした。ぜひ来年も来たいです!
とてもレベルが高く、おどろきました。自閉症の息子もピアノをずっと習っており、ピアノの先生にゴールドコンサートにチャレンジすることを話をしていたタイミングで、無料招待券のチラシがきて、ラッキーでした。
グランド大会だけあり、レベルが高かったです。ダーズリンさんの歌声に涙がでました。皆さんすばらしくて感動しました。
素晴らしい。未永く残すべきイベントだと思います。
障がいがあってもなくても何でも同じに楽しんだり、普通に生活できる、そんな風になるよう。
10周年おめでとうございます。10年の重みをひしひしと感じました。これからも続けて下さい。
演奏毎の審査員のコメントは省いても良いのではないのでしょうか?
正直に言うと、感覚的に受け入れ難い音もあったのです。表現されて伝わってくるものは、生きている楽しさ、存在の肯定感、自由さ、希望など勇気づけられるものばかりでした。森圭一郎さんの歌は、特に表現力が私の琴線に触れる感じで、涙しました。一部の時間があっという間で、予定より遅い帰宅になりました。それでも、教え子は、次の日の仕事に頑張って出られたので、安心しました。
全員の出演者の方々の心あたたまる演奏、歌声に感動しました。また機会があれば、是非コンサートに行きたいです。東儀さんの演奏もすばらしかったのですが、トーク（自分の子どもには好きなことを伸ばしてやりたいという話）にも感動しました。

## 研究実行委員

今福 義明

長谷川 明日香

長谷川 洋介

山本 真也

渡邊 惟大

## 研究代表者プロフィール

貝谷嘉洋 略歴

1980年 「筋ジストロフィー」と診断を受ける。

1984年 自立歩行不可能となる。以後進行し、現在日常生活のほぼすべてに要介護。

1993年 関西学院大学商学部卒業後、単身で渡米し現地の介護者を雇用し自立生活開始。

1997年 野田聖子郵政大臣政策秘書を務める。

1999年 カリフォルニア大学バークレイ校ゴールドマン政策大学院修了。

同年 「魚になれた日ー筋ジストロフィー青年のバークレイ留学記」講談社 著。

2000年 手先だけで運転できるジョイスティック車を自身で運転しアメリカ一周。NHKのドキュメンタリー番組が放映。

同年 「日本バリアフリー政策研究所」を設立（翌年、東京都からNPO法人として認可）。以後、現在まで代表理事を務める。

2001年 ソロプチミスト日本財団「社会ボランティア賞」受賞。

同年 ジョイスティック車で我が国初の運転免許新規取得。

2003年 「ジョイスティック車で大陸を駆ける」日本評論社 著。

同年 第1回ゴールドコンサート（障がい者の音楽コンテスト）主催。

同年 介護事業所「パーソナル・アシスタント・サービス東京」設立。

2004年 上智大学文学研究科社会学専攻（社会福祉コース）博士後期課程修了。

同年 NHK厚生文化事業団障害福祉賞 専門委員就任。以後、現在まで毎年。

2005年 第2回ゴールドコンサート主催。

同年 第3回読売福祉文化賞 大賞受賞。

2006年 第3回ゴールドコンサート主催。以後、東京国際フォーラムにて毎年。

2008年 「NPO法人日本バリアフリー協会」設立。以後、現在まで代表理事を務める。

2009年 「介護漫才ー筋ジストロフィー青年と新人ヘルパーの7年間」小学館 著。

2010年 東京大学大学院教育学研究科バリアフリー教育研究開発センター協力研究員就任。

2012年 国士舘大学 非常勤講師就任。

2013年 社会福祉法人 鉄道身障者福祉協会 評議員就任。